

60分でわかる新約聖書(4) 「ヨハネの福音書」

1. はじめに

(1) ヨハネの福音書の位置づけ

- ① マタイ、マルコ、ルカは共観福音書と呼ばれる。
- ② ヨハネの福音書は、第4福音書と呼ばれる。
- ③ 4つの福音書の特徴
 - * マタイは、キリストを「ユダヤ人の王」として描いた。読者はユダヤ人。
 - * マルコは、キリストを「しもべ」として描いた。読者はローマ人。
 - * ルカは、キリストを「人の子」として描いた。読者はギリシア人。
 - * ヨハネは、キリストを「神の子」として描いた。読者は全世界。
- ④ 共観福音書は、キリストの生涯の出来事について記録している。
- ⑤ ヨハネの福音書は、それらの出来事の霊的意味について解説している。
 - * 五千人のパンの奇跡は、すべての福音書が取り上げている。
 - * しかし、「いのちのパン」のメッセージを記録しているのはヨハネだけ。
- ⑥ ヨハネは、「奇跡」ではなく、「しるし」という言葉を使っている。

(2) 著者

① ヨハ 19:35

Joh 19:35 それを見た者があかしをした。そして、そのあかしは真実である。その人は、自分が真実を語っていることを知っている。それは、あなたがたも信ずるようになるためである。

- ② 著者は目撃者である。
- ③ 「主に愛された弟子」である。
- ④ ゼベダイの子ヨハネである(共観福音書から判断できる)

(3) 執筆年代

- ① 最後に書かれた福音書である。
- ② 恐らく、紀元85年～95年の間に書かれたのであろう。

2. アウトライン: ヨハネの福音書の特徴

- I. 執筆目的
 - II. 7つの神性宣言
 - III. 7つのしるし
 - IV. 信仰と不信仰の対立
- 結論: 信仰と不信仰の葛藤

ヨハネの福音書について学ぶ。

I. 執筆目的

1. 伝道的目的

(1) ヨハ 20 : 30~31

Joh 20:30 イエスは弟子たちの前で、ほかにも多くのしるしを行われたが、それらはこの書には書かれていない。

Joh 20:31 これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの名によっていのちを得るためである。

- ①イエスは神の子キリストである。
- ②そのことを証明する「しるし」をイエスは数多く行われた。
- ③その中から7つのしるしを選ばれ、書き記された。
 - *ヨハネは、聖霊の導きによって7つの奇跡を選んだ。
 - *ちなみに、4つの福音書には35の奇跡が記録されている。
- ④イエスをメシアとして信じる者は、イエスの御名によっていのちを得ることができる。

(2) 読者は、イエスが行った「しるし」の意味を熟考する必要がある。

- ①ヨハネの福音書は、読者の信仰か不信仰かを選ぶように迫ってくる。

II. 7つの神性宣言

はじめに

- ①「I am ○○」は、神の永遠性を示す神性宣言である。
- ②ギリシア語では、「エゴウ エイミ」である。
- ③ヨハネは、イエスによる7つの神性宣言を記している。

1. 「わたしはいのちのパンです」

(1) ヨハ 6 : 35

Joh 6:35 イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渇くことはありません。

(2) モーセが与えたパンと自分が与えるパンとの対比

2. 「わたしは世の光です」

(1) ヨハ 8 : 12

Joh 8:12 イエスは再び人々に語られた。「わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持ちます。」

(2) 光と闇の対比

3. 「わたしは羊たちの門です」

(1) ヨハ 10:7

Joh 10:7 そこで、再びイエスは言われた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしは羊たちの門です。」

(2) 盗人と羊の門の対比

4. 「わたしは良い牧者です」

(1) ヨハ 10:11

Joh 10:11 わたしは良い牧者です。良い牧者は羊たちのためにいのちを捨てます。

(2) 良い牧者と悪い牧者の対比

5. 「わたしはよみがえりです。いのちです」

(1) ヨハ 11:25

Joh 11:25 イエスは彼女に言われた。「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。」

(2) いのちと死の対比

6. 「わたしは道であり、真理であり、いのちです」

(1) ヨハ 14:6

Joh 14:6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。」

(2) 「迷子の状態、無知な状態、死んだ状態」と「道、真理、いのち」の対比

7. 「わたしはまことのぶどうの木」

(1) ヨハ 15:1

Joh 15:1 わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫です。

(2) キリストに留まることと、離れることの対比

III. 7つのしるし

はじめに

①キリストの神性を示す7つのしるし

②しるし(サイン)とは、神学的意味を持った奇跡のことである。

1. 水がぶどう酒に変わった奇跡(ヨハ2:1~11)

- (1) カナの婚礼で、ぶどう酒が切れた。
- (2) 母マリヤがイエスに助けを求めた。
- (3) イエスは母マリヤに、「あなたは、わたしと何の関係があるのでしょうか。女の方。わたしの時はまだ来ていません」とお答えになった。
- (4) 「時」とは十字架の時を指す。
- (5) イエスは、石の水がめの水を取り、それをぶどう酒に変えた。
- (6) この奇蹟は2つの結果を生んだ。
 - ①主イエスの栄光が現れた。
 - ②弟子たちは、イエスをメシアと信じたことが正しかったことを確信し、より深い信仰へと導かれた。
- (7) ぶどう酒(喜び)が切れたとき、イエスをそこに招き入れる人は幸いである。

2. 王室の役人の息子の癒し(ヨハ4:46~54)

- (1) 王室の役人が、息子が死にかかっていたため、イエスに助けを求めに来た。
- (2) カペナウムからカナまでの距離は約30km。
- (3) イエスは「帰って行きなさい。あなたの息子は直っています」と声をかけた。
- (4) 役人は、イエスが言われた「ことば」を信じて、帰途に就いた。
- (5) イエスが声をかけたその時間に、息子が直った。
- (6) イエスのことばに信頼する信仰が、家族の中に生まれた。

3. ベテスダの池での病人の癒し(ヨハ5:1~9)

- (1) 彼は、長い間(38年間)病気に罹っており、絶望していた。
- (2) この病人は、いわば「他者依存症」という病にかかっているような状態。
- (3) イエスは、「よくなりたいか」と声をかけ、彼の興味を引いた。
- (4) イエスは、「起きて、床を取り上げて歩きなさい」と言われた。
- (6) そのことばに応答した彼は、すぐに直って、床を取り上げて歩き出した。
- (7) この「しるし」は、イエスのメシア性をイスラエルに示すためのものである。

4. 5千人のパンの奇跡(ヨハ6:1~14)

- ①このしるしは、群集に対する憐れあわれみが動機となって行われたものである。
- ②またこのしるしは、弟子たちを訓練するためのものでもあった。
- ③弟子たちの使命は、自分の持てるものをすべて差し出し、メシアが与えてくださるものを受けて、それを人々に分配することである。
- ④このしるしは、「いのちのパン」のメッセージにつながる。

5. 嵐を静める奇跡(ヨハ6:16~21)

- (1) 弟子たちだけで舟に乗り込み、向こう岸(カペナウム)に渡ろうとした。
- (2) 湖は強風で荒れ始め、9時間も嵐の中をさまよう結果となった。
- (3) 彼らは、嵐の中で自分たちが無力であることを痛感した。
- (4) イエスが近づいて来るのを見た彼らは、恐れた。
- (5) イエスは彼らに、「わたしだ。恐れることはない」と声をかけた。
- (6) イエスを舟に招き入れると、湖は静まり、舟はすぐに目的地に着いた。
- (7) 彼らはイエスを信じていたが、それを生活に適用することができなかった。

6. 生まれつきの盲人の癒し(ヨハ9:1~7)

- (1) イエスは、「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現れるためです」と言われた。
- (2) これは安息日に起こった癒しである。
- (3) イエスは、つばきで泥を作り、それを盲人の目に塗られた。
- (4) イエスは、「行って、シロアムの池で洗いなさい」とお命じになった。
- (5) この癒しは、多くの目撃者がいる所で起こった。

7. ラザロの蘇生(ヨハ11:38~45)

- (1) イエスは、ラザロの墓の前で涙を流された。
- (2) イエスは、死んで4日も経つラザロを蘇生させた。
- (3) この奇蹟は、イエスが死者をよみがえらせる権威を持ったメシアであることを証明している。

結論：信仰と不信仰の葛藤

1. イスラエルの民によるメシア拒否

- (1) ヨハ1:11

Joh 1:11 この方はご自分のところに来られたのに、ご自分の民はこの方を受け入れなかった。

- (2) ユダヤ人のほとんどがイエスが行ったしるしを拒否し、不信仰がますます強くなって行った。
- (3) その極みが、「十字架につけろ」という叫びである。
- (4) ヨハ19:15

Joh 19:15 彼らは叫んだ。「除け、除け、十字架につけろ。」ピラトは言った。「おまえたちの王を私が十字架につけるのか。」祭司長たちは答えた。「カエサルのほかには、私たちに王はありません。」

2. イエスを信じる少数の人々

- (1) 弟子たち
- (2) 王室の役人
- (3) サマリヤ人
- (4) からだに麻痺のある人
- (5) 盲人
- (6) アリマタヤのヨセフとニコデモ
- (7) その極みが、トマスの叫びである。
- (7) ヨハ 20 : 28~29

Joh 20:28 トマスはイエスに答えた。「私の主、私の神よ。」

Joh 20:29 イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ないで信じる人たちは幸いです。」

3. 今日でも同じ葛藤が存在する。

- (1) 信仰の道か、不信仰の道か。
- (2) ヨハ 20 : 30~31

Joh 20:30 イエスは弟子たちの前で、ほかにも多くのしるしを行われたが、それらはこの書には書かれていない。

Joh 20:31 これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたが信じるためであり、また信じて、イエスの名によっていのちを得るためである。

- (3) あなたは、信じて、イエスの名によっていのちを得たか。